

公益財団法人

かめのり財団 アニュアルレポート

2025 年度 年次報告書

2025



かめのり財団



相手と対話する

2025年度は、青少年交流、海外日本語教育支援、大学院留学生奨学金、基盤整備の多文化共生支援やかめのり賞など、多くの事業を実行できました。これもひとえにご協力くださった皆様のおかげと深く感謝しております。

振り返れば、世界の価値観が混乱の極みに至る1年でした。強硬な姿勢を見せる国のリーダーによる侵攻、侵略、奪取、攻撃で、世界経済も混迷を深め、子どもが虐殺されることがニュースにもなくなりました。

こんな時代だからこそ、大切にすべきは「対話」なのでしょう。人は対話することによって人間性や価値観を深め、よき人となっていきます。自分勝手な考えを振りかざし、相手を思うことができない支配者たちを見ながら、未来を創る若者たちには、国の垣根を越えてよき対話をする人になってほしいと心から思いました。

2026年度は財団設立20周年の節目の年となります。若い世代が交流し、未来に渡る相互理解と友好を育むために、「対話」を大切にする財団でありたいと考えています。

かめのり財団 理事長
宮嶋 泰子

公益財団法人 かめのり財団は
日本とアジア・オセアニアの
若い世代の交流を通じて
未来にわたって各国との
友好関係と相互理解を
促進するとともに
その架け橋となる
グローバル・リーダーの
育成を目的に事業を行っています

今号の内容	
かめのり財団 活動の方針とその実践	3
奨学事業	4
2025 年度修了生・2026 年度新奨学生 夏の研修交流会 in 盛岡	
国際交流事業	6
青少年交流事業 Kamenori Youth Connect:Philippines 2025 インドネシア派遣プログラム 「高校生を対象とした富山市の国際協力現場体験学習」 第9 回高校生カンボジアスタディツアー 第12 回中学生交流プログラム かめのりカレッジ 2025 かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト 2025 (KAFL) デラサール大学訪日プログラム APAC Green Innovator Academy	
海外日本語教育サポート事業	10
にほんご人フォーラム 2025 にほんご人フォーラム関連事業	
国際交流事業助成	13
アジアスポーツフェスタ 2025 日本文化交流に向けての人材育成事業 ～日本庭園を通じて～ ピースビルディング・ユース・プログラム (PYP) 2025	
基盤支援事業	14
多文化共生ネットワーク会議 かめのり多文化共生塾 2025 多文化共生の担い手・実践者全国会議 2025 多文化共生地域ネットワーク支援事業 事業助成 かめのりフォーラム 2026 かめのりセッション 2026 第19 回かめのり賞 受賞団体のご紹介 かめのり講演会・鼎談 2025	
財務のあらまし / 評議員・役員一覧	19
設立 20 周年の節目にあたって / 今後の予定	20

かめのり財団 活動の方針とその実践

ミッション：基本方針

かめのり財団は、2006年に設立され、2011年に公益財団法人として認可されました。その活動の目的は、日本とアジア・オセアニア地域の若い世代の交流と、その懸け橋となる人材育成を通じて、未来にわたって各国との友好関係と相互理解を推進することにあります。

この目的を達成するため、柱となる3つの事業「高校生交換留学および大学院アジア留学生への**奨学事業**」「青少年の交流および言語教育支援を助成する**国際交流事業**」「それらの推進のための、顕彰、講演・シンポジウム等の**基盤支援事業**」を実施してきました。

ビジョン：10年の目標

財団設立10年目の2016年度には、その後の10年間の活動方針として、次の3つの目標を掲げ、以後この方針のもと様々な活動を続けています。

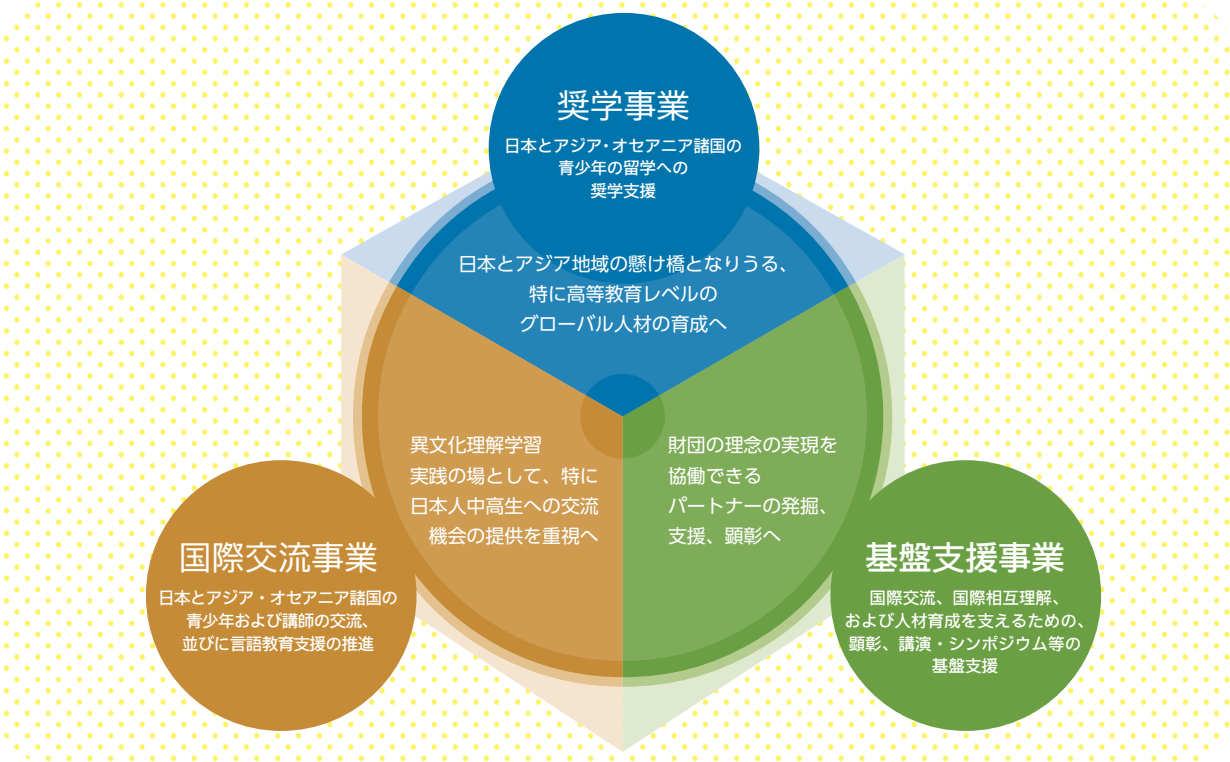
- 1. 前向きにチャレンジし続ける「かめのりスピリット」をもつ若い人々の育成
- 2. 異なる文化の人々と信頼関係を築き協働できる若い人々の育成
- 3. ゼロから考え創る力を持つ若い人々の育成

また、若い世代が自ら育つ環境づくりを目指して、奨学事業や国際交流事業において、「**アジア・オセアニア地域、特に中国・韓国・東南アジアを理解する日本の青少年の育成**」と「**お互いの理念や目的を尊重し、協働できるパートナーとの事業展開**」を重視しながら事業を進めてきました。

かめのり財団が掲げるこのような目的と目標のもと、青少年を対象としたアジア諸国への派遣・交流プログラムや海外日本語教育支援を継続してきました。コロナ禍で事業が中断した時期もありましたが、オンライン化や新規事業の立ち上げにより、若い世代の学びの機会を守り続けました。

対面交流が本格的に再開した2024年度を経て、2025年度は国際交流事業がさらに発展し、派遣・受入の双方で多様な学びが生まれた一年となりました。交流の質を高める取組みも進み、若者が異文化理解を深める環境が一層整ってきています。また、多文化共生に関する取組みを基盤支援事業として体系的に整備し、地域社会や教育現場を支える仕組みを充実化してきました。

本年次報告書では、2025年度に実施したこれらの活動をご紹介します。



奨学事業

日本の大学院で正規生として研究を行う、アジアからの留学生を支援しています。毎月20万円の奨学金を支給し、定期面談等を通じたサポートを行うほか、夏休みには研修交流会を実施し、研究発表や奨学生同士の交流の場、日本の地域や文化を知るための機会を提供しています。

2025年度 まとめ

2025年度は4名の奨学生が修了し、更なる研究の継続や、日本での就職など、次のステップに踏み出すこととなりました。また、2026年度奨学生として新たに2名をお迎えしました。



大学院留学奨学金

2025年度修了生



曹 怡

Cao Yi ソウ・イ (中国)

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻 (博士後期)
奨学金受給期間：2023年4月～2026年3月
研究テーマ：中世歌人の新しい中国文学への摂取
―五山との交流を中心に―

この3年間、かめのり財団に援助をいただき、研究に専念でき、様々な面で温かく支えられました。自分の専門外の方々と交流でき、励まし合うことが日々の励めとなりました。いただいたものを大切に、明るい未来につながることを願っています。これからかめのりファミリーの一員として、社会へ還元したいと思います。



具 弦俊

Koo Hyeonjun グヒョンジュン (韓国)

立教大学大学院 社会学研究科
社会学専攻 (博士後期)
奨学金受給期間：2023年4月～2026年3月
研究テーマ：労働市場における外国人労働者の
社会経済的統合―日韓の国際比較を中心に―

かめのり財団の奨学生に採用していただき、3年間にわたり温かいご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。未熟な私にこのような貴重な機会を与えていただき、多くのことを学びました。この御恩を忘れず、今後は微力ながら、何か力になれる機会があれば感謝の気持ちをもって関わらせていただきたいと思います。



麻 俊凡

Ma Junfan マ シュンボン (中国)

上智大学大学院文学研究科
新聞学専攻 (博士後期)
奨学金受給期間：2023年4月～2026年3月
研究テーマ：満州地域の中国語新聞における
日本人移民像の形成―『濱江時報』を中心に―

3年間のご支援に心より感謝します。この期間で得た最大の財産は「人とのご縁」です。体調を崩した時や指導教員の変更で悩んだ際、かめのりファミリーの言葉に度々支えられ、「頼ることは前に進む力」と学びました。今後は社会人として歩みつつ研究も続けます。後輩の皆さんも一人で抱えず、つながりを大切にしてください。



イ ワン ユウキ

I Wayan Yuuki (インドネシア)

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科
身体運動科学領域専攻 (修士・博士前期)
奨学金受給期間：2024年4月～2026年3月
研究テーマ：インドネシアが誇る天然素材「ココナッツオイル」と運動の併用による認知機能亢進効果とその理論の基盤形成

かめのり財団の奨学生として過ごした2年間は、研究に思いきり打ち込めたかけがえのない時間でした。研究を心から楽しみ、経済的な不安なく安心して向き合えたのは財団の支えのおかげです。インドネシア人初の奨学生としての誇りを胸に、ご縁に感謝しながら、誰かの背中をそっと押せる存在を目指し今後も励んでまいります。

奨学事業

2026年度新奨学生



陳 重華

Chen Zhong Hua チン ジュウカ (中国)

立命館大学大学院 生命科学研究科生命医科学コース
(修士・博士前期)
奨学金受給期間：2026年4月～2028年3月
研究テーマ：CDK4/6 阻害薬の早期導入は費用対効果に優れるか：HR 陽性乳がんの一次治療戦略比較

生命医学を学び、HR 陽性 HER2 陰性乳がん治療の費用対効果を研究しています。母の病気をきっかけに患者負担と医療の在り方を考えるようになりました。限られた医療資源の公平な配分に役立つ根拠を示し、持続可能な医療制度に貢献したいと考えています。日中双方の文化を理解し、国際交流や社会への還元に力を尽くします。



黄 振峰

Huang Zhenfeng コウシンホウ (中国)

北海道大学大学院 経済学院現代経済経営専攻博士
コース (修士・博士前期)
奨学金受給期間：2026年4月～2028年3月
研究テーマ：家計行動分析

16歳より日本で学び、言葉や環境の壁に苦しみながらも歩み続け、北海道大学で首席卒業とクラーク賞受賞という思いがけない景色に出会いました。経済学を通じ人々の暮らしの選択を見つめ、家計行動の研究を深めていきます。理論と実証から、暮らしの奥にある選択や葛藤を読み解き、社会に還元できる知見を生み出したいです。

夏の研修交流会 in 盛岡



実施期間：2025年9月1～3日

場 所：岩手県盛岡市

本イベントは、大学院奨学生が研究発表と交流を通じて学びを深める場として毎年実施しているものです。盛岡は、歴史と文化が息づく落ち着いた環境であり、学びと交流の双方が叶いました。

まずは奨学生による研究発表から幕を開け、文学、スポーツ科学、社会学など多様な分野の発表が行われました。互いの研究姿勢に刺激を受けながら議論を深め、活発な質疑が交わされました。同行した理事長の宮嶋による講義では、多様性をめぐる経験談が語られました。

また、研究発表を見学した岩手県立大学の学生

による案内で、盛岡市内を散策しました。歴史ある鉾屋町の街並みを巡るなど、地域文化への理解を深めました。盛岡名物のわんこそばにも挑戦し、緊張がほぐれる和やかな時間となりました。最終日は、遠野市へ移動し、語り部による昔話の公演や藍染め体験、カップ淵周辺の散策など、東北の自然と文化に触れました。

参加した奨学生からは「異分野の研究に触れ視野が広がった」「地域の文化に触れる体験が印象深かった」という声が寄せられました。3日間を通じて、奨学生同士のつながりがさらに強まり、研究への新たな気づきと地域文化への理解が深まる充実した研修交流会となりました。

国際交流事業 青少年交流事業

日本およびアジア各国の青少年を対象として、様々な事業パートナーと協働しながら、国際相互理解を推進する国内外での交流事業を実施しています。

2025年度
まとめ

今年は新たに2つのプログラム、「Kamenori Youth Connect」と「高校生を対象とした国際協力現場体験学習」がスタートしました。また、コロナ禍以降初めて「かめのり中学生交流プログラム」を再開し、多くの青少年が海外での体験を通じて学びを深める機会となりました。国内でも、日本とアジアの青少年を対象とした交流事業を実施し、幅広いプログラムが展開された1年でした。
ここで得た気づきと経験を携え、より大きな世界へ向けて歩みを進めてくれることを期待しています。

青少年交流事業

インドネシア派遣プログラム 「高校生を対象とした富山市の国際協力現場体験学習」

富山市の高校生6名を対象とした「国際協力現場体験学習」をインドネシア・バリで実施しました。本プログラムは、富山市のSDGs推進の取組みを背景に、環境分野をテーマとした初の試みとして行われました。

参加者は在デンパサール日本総領事館を訪問し、深刻化するごみ問題について説明を受けました。続いて現地高校を訪れ、生ごみの堆肥化やマイボトル利用など、学校全体で進められる環境活動を視察しました。富山の高校生も落ち葉を使った堆肥づくりを体験し、日本との違いを実感しました。

現地高校生とのディスカッションでは、ごみ処理における技術と意識改革の重要性について意見を交わし、文化的背景の違いを踏まえて環境課題を考える機

会となりました。

8日間の活動を通じ、参加者は環境問題への関心を深め、国際社会の課題に向き合う姿勢を育む経験を得ました。

共 催：富山市・(独)国際協力機構(JICA)
実施期間：2025年8月16～23日
場 所：インドネシア・バリ(デンパサール、タバナン)
参加者：富山市の高校生6名



Kamenori Youth Connect: Philippines 2025

フィリピンにて実施した「Kamenori Youth Connect: Philippines 2025」は、これまでの高校生交流事業の経験を踏まえつつ、新規事業として立ち上げたもので、日本の高校生6名を対象としました。

前半は、まずJICAフィリピン事務所を訪問し、現地での国際協力の取組みや海外でのキャリアについて話を伺いました。続いてデラサール大学附属高校を訪問し、様々なアクティビティを通じて仲を深めていきました。また、現地生徒と一緒に旧市街も散策し、楽しみながら歴史や伝統文化に触れる貴重な機会となりました。

後半は、フィリピン大学オープンユニバーシティ(ラグーナ州)で開催された「にほんご人フォーラム2025

in フィリピン」に参加しました。フィリピンの高校生と同室で生活しながら活動を共にすることで、異文化環境での協働やコミュニケーションの難しさと楽しさを体験しました。自分の殻を破りながら様々な気づきを得る経験となり、参加者からは「帰国したくないほど充実していた」との声も聞かれました。

1週間のプログラムを通じて、参加者はフィリピンの社会・文化への理解を深めるとともに、日本の高校生同士の絆も強まりました。新たなつながりと学びが生まれ、参加者の挑戦を支える基盤が育まれました。

実施期間：2025年10月23～30日
場 所：フィリピン(マニラ首都圏、ラグーナ州)
参加者：日本の高校生6名



第9回高校生カンボジアスタディツアー

全国から選ばれた高校生10名が、教育や平和への理解を深めるためにカンボジアを訪れました。

プノンペンでは、在カンボジア日本国大使館やUNESCOプノンベン事務所を訪問し、国際協力の現場について学びました。また、ボル・ポト政権下の悲劇を伝えるツールスレン博物館やキリングフィールドを訪れ、内戦の歴史と平和の重要性について深く学ぶとともに、仲間たちと考えを共有しました。

シェムリアップでは、日本ユネスコ協会連盟が運営する寺子屋で子どもたちと交流し、教育支援の現状を理解しました。さらに、アンコールワットをはじめとする世界遺産群を見学し、カンボジアの歴史と文化の豊かさに触れました。

最終日には、参加者が現地で得た学びを発表し、社会課題を自分ごととして捉える姿勢が育まれました。

共 催：(公社)日本ユネスコ協会連盟
実施期間：
事前研修 2025年7月27日
現地研修 2025年7月28日～8月3日
場 所：カンボジア(プノンベン、シェムリアップ)
参加者：日本の高校生10名



青少年交流事業

青少年交流事業

第12回中学生交流プログラム

2019年度以来となる「中学生交流プログラム」を実施し、中学生10名がインドネシアを訪れました。本事業は、若い世代が異文化に触れ、多様な価値観を学ぶことを目的に継続しており、12回目の今回は「食文化、環境問題とその課題解決のための取り組み」をテーマとしました。

ジャカルタではオリエンテーションやクイズで基礎知識を学んだ後、イスラム教モスクの見学や手食体験、MRT乗車などを通じて都市の文化や生活に触れました。また、日本国大使館への表敬訪問や国際交流基金との懇談を通じ、外交や文化交流の役割への理解を深めました。

その後バリへ移動し、現地校での日本紹介プレゼンテーションや折り紙交流を行い、さらにガムラン演奏やバリ舞踊に取り組むなど、伝統芸能を体験しました。ホームステイでは家庭生活を共にし、一生の思い出を作りました。



環境再生活動団体の訪問では、再生型農業や廃棄物管理の取り組みを学び、堆肥づくりやビーチ清掃に参加しました。料理教室では現地の食文化を体験し、食と環境のつながりを実感しました。

参加者は異文化理解力や環境意識を高め、人と自然、社会との関係を考える貴重な学びを得ました。

実施団体：(公財)AFS日本協会
実施期間：2026年2月7～15日
場 所：インドネシア(ジャカルタ、バリ)
参加者：関東地域の中学生10名

かめのりカレッジ 2025

様々な国際交流の機会において、存在感を発揮し、自己主張可能な人材を育成することを目的とした「かめのりカレッジ2025」では、日本とアジアの大学生が多文化環境で協働しながら、自分の価値観や行動を見つめ直す学



びを深めました。全編英語で行われたセッションでは、社会課題の分析やディスカッション、チームワーク演習に取り組み、互いの背景や考え方の違いを理解しながら議論を重ねました。

最終日には、各チームが選んだ課題に対する解決策を英語で発表し、参加者同士が評価し合う形で成果を共有しました。異なる文化や専門性をもつ仲間と協働する経験は、参加者に新たな視点と挑戦する力をもたらしました。

実施期間：オリエンテーション 2025年7月19日
英語グループレッスン 2025年7～8月
メインプログラム 2025年8月24～27日
場 所：L stay & grow 晴海(東京都中央区) 他
参加者：国内在住の日本の大学生18名
東南アジア(インドネシア、フィリピン、マレーシア、タイ)の大学生4名

かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト 2025 (KAFL)

変化が激しく正解のない時代に必要とされる“全員発揮型のリーダーシップ”を育むことを目的に実施する「かめのり未来をつくるリーダーシッププロジェクト(KAFL)」。今年度は、反転学習を基盤にオンライン研修と対面研修を組み合わせ、リーダーシップの基礎、必要なスキル、社会課題の理解という3つのテーマで構成しました。



参加者は事前学習を踏まえて議論やワークに取り組み、互いの経験や価値観を共有しながら学びを深めました。多様な背景をもつ参加者が主体的に学び合うことで、一人ひとりがチーム文化づくりや自分らしいリーダーシップのあり方を探求しました。

実施団体：特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム(JIYD)
実施期間：
オンライン研修 ①2025/11/12、②11/19、③11/26
合宿研修 2025年12月6～7日
場 所：L stay & grow 晴海(東京都中央区) 他
参加者：国内在住の高校生4名 および大学生17名
合計21名

デラサール大学訪日プログラム

デラサール大学の学生12名が来日し、日本社会を多角的に学びました。大学訪問や伝統文化の体験の他、社会実践の場にも足を運び、交流や街頭インタビューを通じて、多様な価値観に触れ、自分たちの視野を広げる時間となりました。

実施期間：2025年11月16～23日
場 所：東京および近郊
参加者：フィリピン・デラサール大学国際関係学部日本学科の学生12名



APAC Green Innovator Academy

(一社)Green Innovationが主催する、アジア太平洋地域における脱炭素社会及びGXの実現を担う次世代のグリーン・イノベーター人材の育成を目的とした実践形式の国際プログラム「APAC Green Innovator Academy」



の一環として、海外フィールドワークを共催しました。4カ国に分かれ、それぞれ2～5日間の日程で行われたフィールドワークでは、脱炭素社会に向けた各地域での取り組みを視察し、専門家からの学びを通じて課題を確認しました。

共 催：(一社)Green Innovation
実施期間：2025年9月20日～11月30日
訪問先：香港、日本(長野県松本市)、タイ、フィリピン
参加者：日本、フィリピン、香港、インドネシア、マレーシア、カンボジア、ミャンマー、タイの大学生 合計42名

国際交流事業

海外日本語教育 サポート事業

2012年度以来、(独)国際交流基金との協働で、東南アジア各国における日本語教育を支援する事業を実施しています。

2025年度
まとめ

「にほんご人フォーラム」集合フォーラムは、2019年度以来、6年ぶりに海外での開催が実現しました。高校生と日本語教師がともに、日本語でのワークやフィールドトリップ、各国文化紹介などの様々な活動に取り組みました。

また、東南アジア各国でも、そうした経験を各国の日本語教育現場で活かせるように、現地事情に即した様々な形で、日本語教師や日本語学習者を対象とした「関連事業」が行われました。

「にほんご人フォーラム」の取組みが徐々に現場に浸透し、「にほんご人ネットワーク」が形成されてきています。

にほんご人フォーラム 2025

「にほんご人フォーラム」は、

- ① これからの社会を生きる世代に求められる能力の育成を目指した外国語教育のアプローチの共有と実践
- ② 中等教育におけるにほんご人ネットワークの形成
- ③ 若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目的とし、「生徒プログラム」と「教師プログラム」で構成されています。

6年ぶりの海外開催となった今回はタイに、東南アジア5カ国と日本の高校生、日本語教師が集いました。オンラインでの事前交流から始まり、対面での協働体験を通じて関係性が深まり、最終日には達成感と充実感に満ちた表情が見られました。

次ページでは、生徒・教師の各プログラムをご紹介します。

実施期間：

オンラインセッション

生徒プログラム 2025年9月13日

教師プログラム 2025年9月13日、10月4日

メインプログラム 2025年10月10～17日

場 所：タイ（バンコク近郊）

参加者：東南アジア5カ国（インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア）の生徒各4名、中等教育日本語教師各2名、引率者各1名、日本の高校生4名 合計39名



海外日本語教育サポート事業

生徒プログラム

生徒プログラムでは、東南アジア5カ国と日本の高校生がグループに分かれ、「小さなところがけ、大きな変化～ゴミ問題について私たちにできることは？～」をテーマに学びを深めました。

オンライン事前交流を経て、タイでの対面プログラ



ムでは、ごみの種類や分別状況を調べるフィールドワーク等を通じ、地域ごとの課題や背景を比較しました。調査や話し合いの結果をもとに「自分たちが日常でできる行動」を日本語で整理し、最終発表を行いました。

文化や言語の違いを越えて意見をまとめる過程は、参加者が主体性と協働性を発揮し、環境問題を自分ごととして捉えるきっかけともなりました。

生徒

参加生徒の声

他の国の新しい友達ができ、お互いの文化を尊重し、それについてもっと学ぶことができたようになった

自信を持って発言できるようになりました

多国籍チームで1つの課題に取り組むことが楽しかった

みんなの特技も性格もわかってきて、うまく話し合いが進むようになった

教師プログラム

教師プログラムは、東南アジア5カ国の中等教育日本語教師が参加し、外国語教育の実践共有とネットワーク形成を目的として行われました。

事前オンラインセッションでは、各国の教育事情や授業実践を紹介し合い、共通する課題や指導上の視点を整理しました。タイでの対面プログラムでは、授業

デザインや協働学習をテーマにしたワークショップに加え、教師も生徒プログラムの活動を実際に観察・体験。生徒が異文化環境でどのようにに関わり、学びを深めていくのかを具体的に捉えることで、自国の授業改善に生かす視点を獲得することができました。

最終日には、学んだ内容を踏まえた授業案や今後の連携の可能性を共有し、各自の教育現場における継続的な取組みの展望が見えました。

教師

参加教師の声

21世紀に必要な能力の大切さが、より深く理解できました

日本語教師のネットワークもできたので、良いチャンスになります

実際に観察したり体験したりして、深く考えさせました。

異文化交流がとても興味深かった

日本語だけでなく、21世紀の能力を中心にして、実践することを学ぶことができました。

※原文ママ



海外日本語教育サポート事業

にほんご人フォーラム関連事業

「にほんご人フォーラム2025」(JSF2025)での学びや実践を展開する関連事業を、東南アジア4カ国で(独)国際交流基金と共催しました。

2025年度にほんご人フォーラム
ベトナム中等日本語教師地域研修

共 催：国際交流基金ベトナム日本文化交流センター
場所・実施期間：
北部(ハノイ市)：2025年11月28～29日
南部(ホーチミン市)：2025年12月19日
中部(ダナン市)：2025年12月28日
対 象：ベトナムの中等教育機関で教える日本語教師
計52名(北部14名、中部15名、南部23名)

JSF2025(タイ)にベトナムから参加した教師の学びを計52名の日本語教師に共有。現地日本語教師リーダー層の育成と地域の教師ネットワーク形成を促進しました。



ミニにほんご人フォーラム (インドネシア)

共 催：国際交流基金ジャカルタ日本文化センター
場 所：メダン(北スマトラ州)
実施期間：2026年2月12～13日
対 象：北スマトラ日本語教師会所属教師10名、
高校生19名、ファシリテーター教師2名

JSF2025(タイ)にインドネシアから参加した教師がファシリテーターとなり、北スマトラ州の教師や高校生を対象に実施。ごみ問題をテーマとし、日本語を使いながらワークや発表に取り組みました。

にほんご人フォーラム 2025 (マレーシア)
～中等教育日本語教師キャンプ

共 催：国際交流基金クアラルンプール日本文化センター
場所・実施期間：
北部(ペナン)：2025年8月5～7日
南部(ジョホールバル)：2025年8月19～21日
中央部(クアラルンプール)：2025年9月9～11日
対 象：マレーシアの中等教育機関で教える日本語教師
計76名(北部25名、中央部33名、南部18名)

現地日本語教師の日本語教授スキルおよび日本語能力の向上と維持を目的に、異文化理解や漢字・日本文化を体験的に学ぶ研修を実施。参加者は様々なワークを通じ「学習者の目線」を得ました。



にほんご人フォーラム 2025 in フィリピン

共 催：国際交流基金マニラ日本文化センター
場 所：ロスパニョス(ラグーナ州)
実施期間：2025年10月26～29日
対 象：フィリピン人高校生12名、日本人高校生6名、
フィリピン中等日本語教師ファシリテーター 6名

フィリピンの「サステイナブル・コミュニティ」に関する取り組みや課題を知ることを通して、にほんご人であるフィリピンと日本の高校生が協力し、自分たちが実践できる活動(スモール・アクション)を提案しました。

国際交流事業
国際交流事業助成

日本とアジア・オセアニア地域の若い世代の交流や育成、日本国内の多文化共生に取り組む団体・個人に対し、助成や協力を行っています。

アジアスポーツフェスタ 2025

助成先：アジアスポーツフェスタ 2025 実行委員会
日 程：2025年10月26日
助成金：500,000円

様々な国・地域にルーツを持つ総勢 217 人が集い、ダンスやバレーボールなどのスポーツを一緒に楽しむだけでなく、ランチや国紹介の時間も通じて交流を深めました。



日本文化交流に向けての人材育成事業 ～日本庭園を通じて～

助成先：(一社)日本庭園協会
実施期間：2026年2月1～28日
助成金：519,211円
研修先：オーストラリア、シドニー

国際社会で活躍する造園家を育成することを目指してオーストラリアへ派遣された若手造園家1名が、造園技術のみならず、職業観など幅広い知見を得ました。



ピースビルディング・ユース・プログラム(PYP) 2025

協力先：(公社)日本ユネスコ協会連盟
日 程：オンラインセッション 2025年12月7日
対面セッション 2026年2月28日～3月1日
協力分担金：720,000円

ユネスコ憲章の理念を土台に、平和を自分ごととして捉え、対話と協働を通じて学びを行動へつなげていくため、全国から大学生・院生・社会人など40名が集いました。



基盤支援事業

日本とアジア・オセアニア諸国との国際交流、国際相互理解、そして人材育成を支える基盤支援として、顕彰や講演会・セミナー、そして近年は多文化共生をテーマとした様々な取り組みを行っています。

2025年度
まとめ

8月に「学校・地域で育む、未来を担う地球市民～地球と日本の未来を見据え、教育者にこれから求められる視点とは～」をテーマとした講演会・鼎談を開催しました。未来を担う若者の創造性や共感性をどのように育んでいくかについて、多角的な視点から理解を深める貴重な機会となりました。

また、第19回かめのりフォーラムでは第19回かめのり賞の表彰式を実施し、日本国内外で活動する2団体・1個人を顕彰しました。

2025年度からは多文化共生地域ネットワーク支援事業を基盤支援事業と位置づけ、2022年度より継続してきた取り組みが引き継がれています。

基盤支援事業

かめのり多文化共生塾 2025

地域で多文化共生を担う人材の育成を目的に、（一財）ダイバーシティ研究所の協力で仙台・四日市・北九州で開催しました。参加者は、外国ルーツ住民の日本語教育、防災、生活支援など、登壇者の実践に基づく具体的な取り組みを学びました。そして地域課題を整

理し、活動計画をブラッシュアップして発表。互いの経験を共有しながら、地域での実践につなげる視点を深めるとともに、担い手同士がつながりを広げる機会にもなりました。

	仙 台	四日市	北九州
	2025年9月29～30日 仙台市民活動サポートセンター	2025年11月13～14日 国際環境技術移転センター	2025年12月8～9日 JICA九州センター
第1日	ケーススタディ 横田シルビア・坂本裕美 (みんなのVamos Papear)	マリア・アラウコ (外国人防災リーダーズ)	章 潔 (伊万里市)
解説・演習	事業計画のブラッシュアップ、課題解決型プランの作成 意見交換・質疑応答、懇親会		
第2日	事業計画の発表と相互評価		
フィードバック	李善姫 (東北大学DEIセンター)	宇藤美帆 (三重県国際交流財団)	堀美幸 (JICA九州)
参加者数	13名	14名	16名



多文化共生の担い手・実践者全国会議 2025

特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の「多文化共生ワーキンググループ」が主催し、(独)国際協力機構、(独)国際交流基金、(一財)自

治体国際化協会との共催および(公財)かめのり財団の助成により実施されました。ハイブリッド形式で開催され、非営利・民間の立場からNGO・NPOの強みを活かし、政府や自治体、関係機関とも連携しながら多文化共生社会の実現を目指す議論が展開されました。実践者が一堂に会し、現状把握や情報共有の貴重な場となりました。

実施期間：2025年7月28～29日
場 所：JICA地球ひろば国際会議場およびセミナールーム
参加者：313名(対面及びオンライン)



多文化共生地域ネットワーク支援事業 事業助成

採択数(団体・個人)：7件
助成総額：8,523千円

国内の多文化共生分野で活動する7団体を採択し、外国ルーツ住民の暮らしを支える地域に根差した活動を助成しました。

採択団体一覧

特定非営利活動法人ISAPH	ともにみらいソウゾウ室
特定非営利活動法人アジア人文文化交流促進協会	にほんごぶらす
特定非営利活動法人ペアレントBASE-Sagamihara-	みんなのVamos Papear
特定非営利活動法人日本在住ベトナム人協会	

多文化共生ネットワーク会議

日本における多文化共生の担い手育成と地域ネットワーク形成を目的に、「多文化共生の担い手ネットワーク会議 2025」を東京で開催しました。外国ルーツの子どもを取り巻く現状や支援の課題についての専門家の講義や、それに続くパネルディスカッションを通じ、教育・福祉・地域が連携する重要性を共有しました。また、2日目には2025年度助成採択団体からの活動報告も行われ、活発な意見交換を通じて担い手同士のつながりを深めることができました。

実施期間：2026年1月23～24日
場 所：L stay & grow 晴海(東京都中央区)
参加者：1月23日：38名 1月24日：42名

1日目

田村太郎氏((一財)ダイバーシティ研究所 代表理事)の講義
外国ルーツの子ども達の現状について講義
パネルディスカッション、グループ討議
討議内容の発表、ふりかえり/まとめ

2日目

2025年度助成採択団体の活動報告
採択団体の課題等への意見/情報交換
2026年度事業助成の説明
田村太郎氏よりコメント/ふりかえり



基盤支援事業

基盤支援事業

かめのりフォーラム 2026

2026年1月、2025年度のプログラム参加生や協力者など総勢135名が東京に集い、交流を深めました。冒頭では理事長の宮嶋より、近年の国際情勢のなかで相互理解の重要性が改めて示され、続けて(独)国際協力機構の小林広幸理事より祝辞を頂戴しました。

続いて、第19回かめのり賞の表彰式が行われ、相互理解や多文化共生に関する取組みが紹介されました。プログラム参加生による体験発表では、各事業で得た学びや挑戦が語られ、会場には共感の輪が生まれました。

南米ルーツの住民が多い群馬県太田市で、学習支援や

日本語サポート、居場所づくりに取り組む「みんなのVamos Papear」による活動報告も行われ、言語や制度の壁により学校生活に困難を抱える子どもたちの現状や、地域住民・大学生・専門家が協働する支援体制の重要性が共有されました。子どもたちが安心して学び、自信を取り戻す姿が紹介され、地域で支える仕組みづくりの必要性が提示されました。

日 程：2026年1月9日
場 所：アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)



かめのりセッション 2026

海外派遣プログラムに参加した青少年27名、現役奨学生9名と奨学生OBOG2名が参加し、それぞれの経験や学びを振り返って仲間と共有しました。かめのり財団創設者で評議員の康本健守からは、これからの未来をつくる皆さんに激励のメッセージが贈られ、一人ひとりが新たな挑戦や、自分の学びを社会に生かす一歩へとつなげる時間となりました。

日 程：2026年1月10日
場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)



第19回かめのり賞 受賞団体のご紹介

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰するものです。2025年度は外部有識者を含むかめのり賞選考委員会により、2団体・1個人の表彰が決定しました。



かめのり大賞 草の根部門

一般社団法人 福岡国際市民協会



外国にルーツを持つ保護者らが中心となり福岡で設立。学習支援、母語教育、国際こども食堂、多言語ガイダンス、食支援など多面的な活動を展開し、外国人家庭と子どもに寄り添う。地域住民との交流を重ね、多文化共生の地域づくりを進めている。



かめのり大賞 人材育成部門

特定非営利活動法人 e-Education



途上国の教育格差解消を目指し、ICTを活用した映像授業で農村部の中高生に学びを届ける取組みを開始。2024年からは日本でも活動を展開し、海外ルーツの子どもに算数のオンライン支援を実施。15年の海外実践で培ったノウハウを、日本の課題解決に生かして事業を推進している。



かめのりさきがけ賞

福田 浩之



フィリピン大学大学院で地域開発を学び、NPO法人アイキャンで路上の若者による協同組合づくりを推進してきた実践者。現在は岐阜県美濃加茂市・可児市で多文化共生の新規事業を立ち上げ、行政・福祉・学校をつなぐ仕組みや外国ルーツの若者の居場所づくりを進め、主体性を育む実践を展開している。





かめのり講演会・鼎談 2025

「学校・地域で育む、未来を担う地球市民

～地球と日本の未来を見据え、教育者にこれから求められる視点とは～

教育関係者や教育に関心を持つ方々を主な対象とした講演会・鼎談を、東京会場およびオンラインのハイブリッド形式で行いました。多文化化が進む社会において、子どもたちが未来を主体的に生きるために必要な学びとは何かを考える機会として実施したものです。

講演ではまず、佐藤郡衛氏が登壇しました。多様な背景をもつ子どもが共に学ぶ学校では、教師自身が「当たり前」と思い込んでいる価値観や文化的バイアスに気づ



くことが重要であると指摘し、子どもが安心して学べる環境をつくるためには、背景の違いを理解し、柔軟に関わる姿勢が求められると述べました。

続いて當作靖彦氏が、学びは人と人との関係性の中で育つものであり、つながりをつくる教育こそが未来の社会を支えると語りました。子どもが自ら問いを立て、他者と協働しながら学びを深めていくプロセスの重要性が強調されました。

鼎談では、講演者両名に加えて理事長の宮嶋が登壇し、OECDの「Learning Compass 2030」を手がかりに、予測困難な時代に必要な学びの方向性が議論されました。好奇心を起点に自ら学びをつくる力、他者と協働し社会に働きかける姿勢、そして教師自身が学び続ける専門職として成長することの必要性が共有されました。また、多文化共生の教育を進めるためには、学校だけでなく行政・地域・家庭が連携し、子どもを取り巻く環境全体を支える仕組みづくりが不可欠であるとの意見も示されました。

講演と鼎談を通じ、教育現場が直面する課題と、未来に向けた学びの在り方を多角的に考える機会となりました。

講演 1

「日本の教育の『当たり前』を問い直すー多文化化する教育のビジョンとは」

登壇者：佐藤郡衛氏（公益財団法人国際文化フォーラム理事長、独立行政法人国際交流基金日本語国際センター所長）

講演 2

「つながる教育：激動の時代、不動の理念」

登壇者：當作靖彦氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校名誉教授、元全米日本語教育学会（AATJ）会長）

鼎談

「これから求められる教育とは ～OECDが掲げる学びのコンパス LEARNING COMPASS 2030 その中間年に現状から考える～」

登壇者：佐藤 郡衛 氏、當作 靖彦 氏、
宮嶋 泰子（公益財団法人かめのり財団理事長）

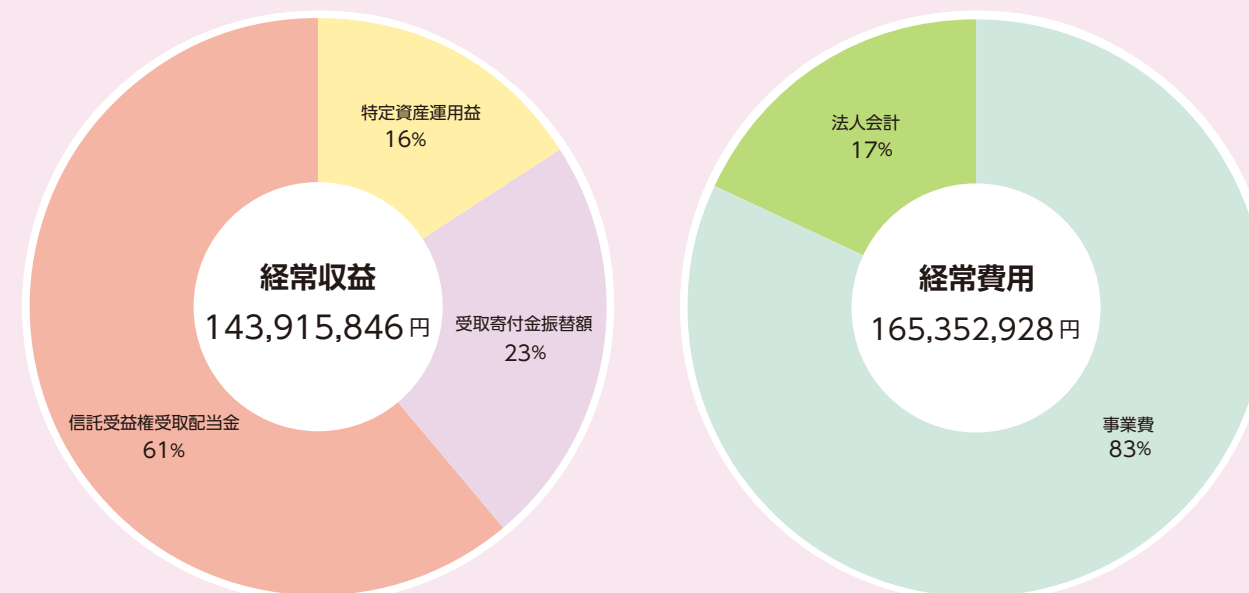
日 程：2025年8月18日

場 所：アルカディア市ヶ谷及びZoomウェビナー

参加者：会場、オンライン 計200名



2025 年度 財務のあらまし



評議員・役員一覧

評 議 員

康本 健守	共立ビル(株) 取締役
上原 史子	岩手県立大学総合政策学部 准教授
袖崎 義俊	元三菱商事(株) 参事
森園 浩一	国際教養大学 名誉教授
力武 義之	四谷川添産婦人科 院長
王 敏	法政大学名誉教授、桜美林大学大学院特任教授

理 事

会 長	
木村 晋介	弁護士
理事長	
宮嶋 泰子	(一社)カルティベータ 代表理事
常務理事	
河合 耕作	元香港三菱商事 社長
理 事	
中野 嘉子	東京理科大学 教授
理 事	
西川 圭輔	フォーティエンスコンサルティング(株) ディレクター
理 事	
西川 雅雄	元(公財)かめのり財団 常務理事
理 事	
原田 英治	英治出版(株) 共同創業者
理 事	
藤井 純一	(公財)渥美国際交流財団 監事

監 事

勝守 令三	元(株)プロヨ 総務部長
山本 和夫	公認会計士・税理士

常務理事着任のご挨拶

2026年4月1日に常務理事に就任した河合耕作と申します。創業者の志を道標に、財団の国際交流、多文化共生、基盤支援の各事業を一步ずつ充実させながら、今年、財団20周年を迎えることができることは、ひとえに皆様のご支援の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

今後、かめのり財団事務局一同、次のステージに向けて『継続と革新』にチャレンジしてまいりたく、皆様の益々のご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人かめのり財団 常務理事 河合 耕作

基盤支援事業

設立20周年の節目にあたって

2006年の設立以来、かめのり財団は多くの皆さまに支えられながら活動をしてきました。皆さまのご協力のおかげで、2026年に20周年を迎えることができましたことに、心より感謝申し上げます。

国際交流の現場で若い世代と向き合う中で、社会の変化とともに多文化共生など新たな課題にも取り組むようになり、活動の領域は自然に広がってきました。これ

まで関わってきたプログラム参加者や事業関係者の皆様、国内外のさまざまな場で活躍する姿を見るたびに、交流を通じた学びが確かな成果として実を結んでいることを実感しています。

これからも皆さまとともに、次の世代が希望を持って歩める未来をつくっていきたいと考えています。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年度の主な予定

2026年7月

第10回高校生カンボジアスタディツアー

高校生インドネシア体験学習

オンラインセミナー 2026

「知る！考える！世界とつながる！共生が広がる！」～グローバル化する日本社会で、未来を拓く自分のチカラを見つけよう～(全2回)

2026年9月

大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会

2026年10月

多文化共生塾

2026年11月

かめのり財団20周年記念フォーラム

第20回かめのり賞表彰式

にほんご人フォーラム2026(フィリピン)

2026年12月

かめのり未来をつくるリーダーシップ

プロジェクト2026

Kamenori Youth Connect: Malaysia 2026

2027年1月

多文化共生の担い手ネットワーク会議

かめのりセッション2027

2027年2月

第13回中学生交流プログラム(香港)

※実施時期が変更になる場合がございます。ご了承ください。

かめのり財団 Web & SNS

本誌記事の事業詳細は、
HPをご覧ください



公益財団法人 かめのり財団

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-5 ベルヴュー麹町1階

TEL: 03-3234-1694 FAX: 03-3234-1603

E-mail: info@kamenori.jp URL: https://www.kamenori.jp/

発行人 / 河合 耕作

編集 / 山村 陽子

デザイン / イワブチサトシ (BUTI DESIGN)

印刷 / 株式会社佐伯コミュニケーションズ